

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500170
法人名	社会福祉法人 すいよう会
事業所名	グループホーム ほの花
所在地	新居浜市郷3丁目16-33
自己評価作成日	H24年 5/13

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様の意向を大切に、開かれた施設でありたいと努力しています。ご家族、地域の方との交流を大切にしている。水分摂取に力を入れ、個別に目標を設定し、脱水の予防、日中の覚醒レベル向上に繋げると共に下剤を使用せず排便ができるようにコントロールしている。入所時点でオムツや紙パンツを使用している方には、再アセスメントを行い、可能な限り布パンツにて失禁なく、トイレでの排泄が可能になる自立支援に取り組んでいる。また、認知症状の改善には服薬の見直しや学習療法を取り入れ、コミュニケーション能力の改善や生活の活性化に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●利用者のご家族への気持ちをお伝えしたり、外出や外泊できるよう支援されたり、遠方に住むご家族が来られた際には、居室に泊まる環境も整え、「利用者がご家族と過ごす時間」を大切に支援されている。以前、ご自宅で飼っていた猫を系列グループホームで飼ってもらっていて、時々会いに行かれています。以前からの馴染みの散髪店へは、ご家族と出かけられたり、職員が同行して支援されている。
●椿ユニットは、利用者の希望を聞きながら外出を支援し、なでしこユニットは、毎週金曜日は外出する日と決めて、楽しみに出かけておられる。市内のショッピングセンターへ買い物に出かけたり、ラーメン屋やファストフード店、回転寿司等好きなものを食べに出かけておられる。又、事業所の周辺を散歩されたり 隣の畑で飼っているヤギや近所の犬を見に出かけることもある。利用者は職員と一緒に、敷地内の畑の世話や玄関前のプランターで花や野菜の世話をされている。年に1回、利用者の希望を聞きながら「普段は行けない、できない事」を実現出来るように取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループほの花

(ユニット名)

椿

記入者(管理者)

氏名

三谷 由紀

評価完了日

24年

5月

13日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設当初スタッフで話し合い事業所の理念を作った。「ほっと、のんびり、かきねなし」、「やりたいことがやりたいときにできる」、「初心原点にかえる」を目の届く場所に提示しており、常に理念に基づいてケアプランを作成し支援できているか振り返るようにしている。 (外部評価) 管理者は、日々のケアや介護計画作成時に「事業所理念に立ち戻りながら考えてほしい」ことを、職員に伝えておられる。新人職員研修時には、法人理念・事業所独自の理念についても勉強する機会を作っておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、盆踊りや清掃活動、お祭り等地域行事に参加している。また、法人主催の行事への参加を呼びかけ交流を深めている。近所の主婦の方々に調理員として勤務していただいたり、毎日の食材は地元スーパーや鮮魚を活用している。運営推進会議には地域の代表者が毎回参加し意見交換も行われている。また、毎日のゴミ捨てや散歩などの外出を通し地域の方と挨拶を交わす中で自然と交流が深まるようにしている。 (外部評価) 事業所の周辺の畑で作業される近所の方とも顔見知りになっており、利用者が散歩に出かけた際、野菜をもらって帰ることもある。職員は、利用者と一緒に礼を伝えたり、重い荷物を運ぶような作業をされている時には、お手伝いすることもある。ごみの日には、利用者と一緒に収集場所までごみを捨てに行かれたり、自治会行事の地域清掃に参加されることもある。事業所に遊びに来てくれたことのある方にお会いした際には、「また来てください」と、声をかけるようにされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 法人全体で地域参加型の勉強会を開催しており、事業所での取り組みや認知症の理解、支援について説明している。事業所としては運営推進会議で毎回テーマを決め認知症勉強会を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) DVDを作成し日常の様子、行事、学習療法などの報告を行っている。毎回、質疑応答の時間を設け、ご家族、地域の代表、行政、職員が意見交換を行っている。質問や要望については必ず解答するよう努めている。そこで話し合われたことを全職員に伝え、ご利用者の生活の質の向上に役立っている。23年度は道路の舗装、反射板など整備され安全な散歩道が確保された。	
			(外部評価) 運営推進会議は夜間に行っておられ、ご家族、自治会長、民生委員、市の担当者の方も参加して下さっている。会議時には、事業所での様子や取組みについて報告を行い、意見交換をされている。又、「事業所にむかう道が狭く、夜間は溝が見えにくくなるので、落ちないように反射板や街灯を設置してはどうか」との意見が出され、ボールやブロックに蛍光塗料を塗ったり、テープを巻き対応された。会議では、時々、「認知症の方のかかりについて」「認知症治療薬について」等の勉強会も行い、認知症の理解を深められるような取組みも行っておられる。一人でも多くのご家族に会議に参加いただけるように、事前に書面にて案内し、さらに普段の来訪時にもお誘いして、積極的に参加を働きかけておられる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加しての感想や意見を頂くほか、行事への参加案内、待機者報告、介護支援専門員の地域密着部会への参加、介護相談員の受入を行っている。	
			(外部評価) 市の担当者の方が運営推進会議に参加して下さり、市のグループホームの待機者や他グループホームの取組みについて教えて下さっている。事業所の看取り事例を報告された際には、「ご家族との話し合いや説明がよくできている」と感想をいただいた。介護相談員を2ヶ月に1回受け入れておられる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての勉強会を行っており正しい理解に努めている。玄関、裏口等、夜間以外は施錠していない。また、言葉での抑制にも日々注意している。一人で出掛けることが日課になっている利用者には、ご家族と話し合いGPSを使用した見守りを実践したり、転倒リスクの高い利用者にはセンサーや歩行器、手摺りの設置など環境面の整備や介助方法を検討、実践する事で拘束0を目指している。	
			(外部評価) 「帰りたい」という気持ちになる利用者には、ご自宅に戻って過ごされたり、ご自宅に泊まることもできるよう、ご家族と協力し合って支援されている。「ひとりで出かけた」と希望されるが、行方に不安がある利用者もあり、ご家族と相談してご本人が出かける際に持ち出すバックに居場所がわかるようGPSを付け対応されている。又、バックを持たず外出される場合は、職員が離れた位置から見守り、時々様子を見て声をかけ、納得して事業所に戻れるよう支援されている。このような取組みを行っていることや利用者の様子は、警察署にも知ってもらっており、事業所に戻れることを強く拒むような時があれば、時には警察の方がご本人にお話して下さることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			事業所内の研修や勉強会で虐待防止について学んでいる。管理者は職員のストレスケアを考え各職員の言動や業務の流れの把握に努めている。職員は日常生活において身体に異常がないか、会話の中で言葉の暴力はないか注意し防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			研修や勉強会などで学ぶ機会を設けている。現在は自立支援事業や成年後見制度を活用する事はないが、今後必要時速やかに活用し、支援できるよう継続して学んでいく。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約時には必ず重要事項説明書にて、十分な説明を行いご家族より承諾を得ている。解約や改定にも速やかに対応している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			ご家族からは運営推進会議や面会時、ケアプランの作成段階で、ご利用者からは普段の会話やケアプラン作成時に意見や要望等を察したり、直接確認する事で、運営に反映させている。	
			(外部評価)	
			運営推進会議に参加できなかったご家族には、会議内容を知っていただけるよう送付されている。ご家族の来訪時や介護計画作成前、運営推進会議等には、ご家族から利用者のケアや暮らしについて、要望や意見を聞くようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者や管理者との面談が年2回あり、意見を伝えることができる。法人全体で常に上司に相談や提案することが出来、運営に反映させている。事業所内では月1回の全体ミーティングと同時に事前に、リーダーとの個別面談を行いケアや業務だけでなく様々なことで発言しやすい場面を作る事を心がけている。 (外部評価) 職員は「野菜を育てたい」「編み物をしたい」等の希望を利用者から聞いた際には、管理者やユニットリーダーへ伝え、ミーティング等でも検討し、実現できるよう話し合われている。管理者は、年2回、職員と面談を行っておられ、「困った事や意見はないか」等、一人ひとりから聞き取っておられる。入居前にペットを飼っていた利用者も複数おり、職員から、「事業所で動物を飼うことはできないか」という意見が出された際、法人でも検討されて、ドッグセラピーを取り入れられた。利用者は、いろいろな種類の犬とふれあい、笑顔も多く見られたようだ。現在、事業所の規則では、「ホーム内は、ペットの持ち込み、及び、飼育はできない」ことになっているが、ご家族が利用者にペットを見せに来てくれたり、利用者の楽しみにもなっていることを踏まえ、見直しの必要性も考えておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員一人一人にマイプランがあり、目標設定を行っている。2ヶ月毎に評価し、面接することで、日々向上心を持って働けるよう努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人研修(早朝読書会、一日研修、半日研修、認知症、介護技術等)本人が学びたい研修を選択することができ、職員の質の向上に努めている。また、個々の能力に応じた外部研修を受ける機会を年1~3回確保している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業所との相互見学は行っているが、研修会等は介護支援専門員の部会のみとなっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面接時に生活歴や習慣、現状や困っていることなどについて話し合いを持ち、スタッフ全員に情報を周知している。入所初期、特に三ヶ月は施設内での生活に混乱や不安を抱きやすいのでしっかりコミュニケーションを取り、声掛けや傾聴に工夫し、少しでも話しやすい関係作りに努めている。自分から打ち明けられない方などは表情や行動等に注意している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者はもちろん、ご家族にも積極的に話し合う時間を作ったり、来訪してもらえる機会を作り雰囲気を感じ取っていただくなど、話しやすい環境が出来るよう努めている。全てのことにおいてオープンにし、ご家族に対して隠し事はせず、連絡を取るようになっている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面接での情報を基に、安心して生活できる環境作り(物的、人的環境の整備)に努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることができる場面を多く作る為に、各自役割を持っていただき(掃除、洗濯干し、洗濯たみ、調理の手伝い、縫物、ゴミ集め、ゴミ捨てなど)一緒に行っている。カンファレンス時、一人一人の役割について検討している。また、役割として知識や技術、人生論、経験してきたことを聞かせてもらい、より良い関係が築けるよう努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) お誕生日会やいもたき会、餅つき等の行事と一緒に参加して頂けるように、案内し協力して頂いている。ご利用者が不穏な場合には電話での対応、面会、宿泊などの協力を依頼し、一緒に過ごして頂いている。日常のご利用者がご家族に望んでいることでは、家族と相談し、家族が出来る支援を話し合いケアプランに盛り込んでいる。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある場所(美容室、お墓、お寺、神社、デイ、商店、ドライブなど)へ出掛けている。入居前に使っていた社会資源は調べており、現在も継続して使用できている。回数は以前に比べると減っているが、最大限取り組んでいる。外出が難しいご利用者で会いたい人がいるような場合は来訪して頂けるよう職員が仲立ちしている。 (外部評価) 利用者のご家族への気持ちをお伝えしたり、外出や外泊できるよう支援されたり、遠方に住むご家族が来られた際には、居室に泊まる環境も整え、「利用者がご家族と過ごす時間」を大切に支援されている。以前、ご自宅で飼っていた猫を系列グループホームで飼ってもらっていて、時々会いに行かれています。以前からの馴染みの散髪店へは、ご家族と出かけられたり、職員が同行して支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者の性格、好み、相性、言動などの視点から関係性を考え日常生活を送る様々な場面で配慮している。また、共通項を探し無理なく自然と良い関係が築けるような支援をするよう心がけている。個々の状態を見極め集団と個別で過ごす時間を作る事で「快」の時間が多くもてるように対応している。また、ご利用者同士でのトラブルになる可能性が高い場面では職員が間に入るようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後、必要に応じてご家族と連絡を取りあうことはあったが、長期的なフォローはなかった。特養に移られた方がおられるが時々訪問したり散歩の際立ち寄り下さりスタッフより近況を聞くことができる。必要に応じて家族への対応は可能である。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で個々に職員が関わる時間を意図的に作り(学習療法、個別ケア、食事、入浴、外出、居室訪問など)本人のニーズや思いを把握するようにしている。そこで得た情報は日誌に記録、事前に書面にし月1回のミーティングでケアの見直しに活かし共有するようにしている。即実現可能な件は迅速に、そうでない件も実現可能に向け話合うようにしている。 (外部評価) 利用者との会話の中で、利用者の思いや希望等の聞き取った情報は、日々の介護記録に書き留め、リーダーが個別にまとめて、月1回のミーティング時に、職員と話し合っ希望の実現や改善につなげるように取り組まれている。職員は、利用者一人ひとりについて、「何が出来て何が出来ないのか」「どうされる事が嫌なのか」等の把握に努めておられる。目が見えにくい状態の利用者は、ご自宅では、仏壇に手を合わせお経を唱える習慣があり、事業所での暮らしでも続けられるように、仏具のりんやお線香を用意して、CDでお経をかけ、音やにおい等を感じながら手を合わせたり一緒に唱えられるようにされており、ご本人の安心につながっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族の来訪時の会話やサービス利用のあった事業所からの情報提供、普段の会話の中から把握できるように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 心身状態については一日の中でユニット全体のリズムとご利用者の生活リズムをリンクさせ安定した生活が送れるよう支援すると同時に、普段と異なる心身状態にいち早く気づけるようにしている。その中で気づきや発見、有する力などは一日二回の申し送りや、日誌、日常生活チェック表に記録し共有するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 現在の状況、抱える課題、ニーズについて、本人の意見はもちろん、ご家族の意見、自施設だけでは対応が困難な場合は他部署の意見や協力を含めた介護計画の作成を心がけている。</p> <p>(外部評価) 利用者個々の担当職員と計画作成担当者が中心となり、すべての職員でカンファレンスを行っておられる。ご家族の協力を得ながら利用者の思いや意向を叶えられるような計画作成に取り組まれている。「出来る限り長く、自分の足で歩きたい」と、目標を決めて廊下で歩行練習する利用者があり、職員は「何周目か」ということがご本人に分かるよう札を手作りされていた。又、「早いですね。残り 周です」と声をかけご本人を応援されていた。介護計画は、毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しをされている。</p>	<p>利用者の思いや意向を職員はよく把握されており、今後さらに、利用者の暮らし方の希望等も踏まえ、ご家族や地域の関係者とともに利用者の暮らしを支えていけるよう、地域の資源等も活かして介護計画の作成に取り組んでいかれてはどうか。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別ケース記録、排泄記録、健康チェック表、ケアプラン実施表は毎日記入し、その中で特筆すべき事は業務日誌に記載し共有するようにしている。ミーティングでは特筆事項を事前にまとめたり、それぞれの記録は各担当のご利用者の再アセスメントとケアプラン評価表に用い介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) その時々ニーズに対応できるよう、他事業所の協力やユニット同士の連携を図っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 様々な地域資源(フォーマル、インフォーマルなど)を活用し、ご利用者それぞれが力を発揮できるように支援している。今後も更なる資源の発掘に努力していく。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医は大半が入所と同時にいまなかクリニックになっており看護師が中心となり往診の対応をしたり、家族と協力し受診している。ご利用者やご家族が困る事がないよう必要に応じて同行したり書面を用意している。いまなかクリニック以外のかかりつけ医の受診や専門機関への受診も同様に受診連絡表を作成し、健康チェック表のコピーをわたし、必要であれば同行する事で適切に医療を受けられるよう支援している。</p>	
			<p>(外部評価) 利用者個々の連絡帳を作り、定期受診時には、健康状態を記入して持参されており、返信欄に医師からの指示やコメント等を書いてもらうようにされている。ご家族の都合によっては、職員が受診に同行されており、急変時等は、職員もご家族と一緒に医師からの指示や今後の対応について説明を受けるようにされている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 変わったことや気付いたことは看護師に報告し、指示を仰ぐようにしている。日々のバイタルチェックを看護師が確認している。また、看護職は往診や受診後の結果を書面や日誌に記入し介護職員が確認しやすいようにしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院に伴い必要な情報の提供、荷物の準備のほか、付き添いが必要な場合は家族と相談し介護サービス以外の機関の紹介や仲介を行っている。早期退院に向け入院中は面会や病院関係者に状況を説明してもらい退院後の受入準備をしている。手術や重い疾患など発見された場合は家族に依頼し医者との話し合いの場に参加させてもらえるよう働きかけている。事前に病院関係者との関係作りは行っていない。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護、看護、医者の判断で終末期・重度化の傾向が考えられた時点でご家族に連絡し、意向や対応の確認を行っている。その後、事業所のできる最大限のことや、医療機関ができること、緊急時の対応も含めたプランを作成し、ご家族に説明、同意を得て取り組んでいる。</p>	
			<p>(外部評価) 法人では、定期的に勉強会が実施されており、その後、事業所で職員ミーティングを開き、「不安なこと」「自分達に何が出来るのか」等、話し合われている。管理者は、職員の不安に、「何かあればすぐに看護師、管理者が駆けつける」ことを話して、不安の軽減に努めておられる。この一年間で、利用者1名の看取りを支援された。ご本人の状態変化ごとに、ご家族や医師と話し合いを持ち、薬について検討されたり、ご家族はご本人の好物のお寿司や果物等を持って来てくださる等、ともに支援された。最期は、ご家族が見守る中で安らかに息を引き取られ、ご家族からは感謝の言葉をいただいた。管理者は、「すべての職員で、利用者に、どうして差し上げたいか、意思確認しながら支援できた」と話しておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は 応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践 力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルや事故発生時の緊急連絡マニュアルはある が、応急手当や初期対応の訓練は定期的には出来ていない。たま にミーティングの事例検討では「こんなときどう対応するか?」と、事 例を挙げそれぞれの対応について話し合う事はある。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用 者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、 地域との協力体制を築いている	(自己評価) 事業所では年二回、他事業所と協力し防火訓練を行っている。ま た、法人全体での訓練にも参加している。地域との協力は運営推 進会議で話し合われているが明確には決定していないので今後も 引き続き働きかけていく。	
			(外部評価) 中庭の喫煙スペースを利用する際には、職員と一緒に外出て会話し ながら見守っておられる。年2回、夜間・日中の火災を想定して避 難訓練を実施されており、職員は、消火器の使い方等についても 体験された。又、事業所の地域では、以前、水害が発生した経験も あり、法人では、マニュアルを作成されており、さらには対策につ いて法人で研修も実施されており、管理者は、ミーティング時に職員 に周知されている。緊急自動通報装置を押すと、近くの法人本部に 連絡が付き、駆けつけてくれるようになっており、法人に備蓄も用意 されている。	現在、自治会等で災害時、地域の方達に協力いただけるようお願い いされており、今後、いざという時に助け合えるような地域との協力 体制を作っていきたいと取り組みをすすめているところである。今後 も機会あるごとに話し合わせ、又、地域の防災訓練時に参加されたり、 事業所の防火訓練時に参加してもらえながら、体制作りをすす めていかれてはどうか。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損 ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の生活歴や日々の会話の中で一人ひとりが大切にしている物 事や、習慣の把握に努め最大限気持ちよく実践できるように、どう 支援すればよいか考え、ケアプランに盛り込んでいる。身体介護 (特に入浴、排泄)においては極力本人の意向に沿うよう職員間で 協力し対応している。	
			(外部評価) 利用者の義歯の手入れやトイレへ誘導時には、声かけの大きさ等 にも気を付けて支援されている。又、職員は、「介護する側の思い や感情は指先からも相手に伝わる」という考えのもと、介助時の力 の入れ方にも気を付けておられる。学習療法を継続することによ って集中力が上がった方や「気分や意識の活性化がみられ、名前が書 けるようになった方」もあるが、中には計算問題を行う際、「馬鹿にし とるのか」と言われる利用者もあり、職員は、利用者の力量等も見極 めながら支援することに努めておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己 決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望をしっかり伝えられる方はその都度、言葉や態度に耳を 傾け可能な事から取り入れている。伝えることが困難な方もいるの で少しでも伝えやすいように、選択しやすいような場面を多く作るよ うにしている。職員が強制してしまわないように意思決定しやすい 言葉を使うよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所ではご利用者個々の24時間シートを作成しその人らしい生活スタイルの把握と同時に限られた人員、時間の中で最大限その人らしさが支援できるよう表を作成している。月に一度見直しご利用者の生活スタイルに合わせ変更している。また、その時その時のご利用者の体調や気持ちや希望を優先するよう話し合い、臨機応変に対応する事を心がけている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの好みを大切に、身だしなみを整えている。更衣する際も職員が決めるのではなく、いくつか提示し、ご利用者自身に選んでいただけるようにしている。更衣などで混乱する方には混乱しないよう工夫している。今後も身だしなみやおしゃれを意識するような行事や場面を多くしていきたい。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の手伝いが可能な方に出来る事は手伝ってもらい、個々に得意な料理や食べたい料理があればメニューに取り入れ一緒に作る事もある。調理以外ではおしぼりの準備やお茶いれ、盛り付けを共同で行い食事の準備を行っている。食事中は音楽を流し同じテーブルに座り同じものを食べ食事状況を確認しながら会話を楽しい雰囲気作りを心がけている。後片付けも同様である。 (外部評価) ご近所の方が調理専門のスタッフとして調理にかかわっておられる。法人の栄養士が立てた献立に沿って食事作りされているが、いただいた野菜を使ったり、利用者の希望等も採り入れながら献立を変更されている。利用者は、野菜を切ったり豆の筋取りや大根おろしを職員と一緒にしたり、おにぎりをにぎってくれたりして、調理に無理なくかかわれるような場面を作っておられる。利用者から「すき焼きやグラタンが食べたい」と希望があれば、職員は利用者や食材を買いに出かけて調理されている。調査訪問時、玄関前のプランターからサラダ菜を摘んで来られた利用者の方が、昼食時、「私が採ってきた野菜を出してくれてうれしかった」と笑顔で話してくださいました。食後、下膳する利用者には、職員は、「ありがとうございます」と声をかけておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士作成による献立を基本にしている。食事は個人差を把握し量や形態、道具を用意しわかりやすいよう食事札を作成し提供している。姿勢にも注意しクッションや踏み台を使用したり、テーブルの高さを調整している。食事状況を毎日確認しているので都度、見直し対応している。水分摂取量も個別に健康状態を考え目標摂取量を定め卓上に急須を用意したり、種類、形態を多く用意し提供している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを自力でされる方には声かけし、義歯を外して磨いてもらっている。自力で行うことが難しい方は、出来る範囲で行ってもらい、不十分な箇所は介助を、洗面台で困難な場合は自席でガーグルやブラシを用意しケアしている。定期的に義歯洗浄剤を使用し週に一度は道具の洗浄も実施している。希望や口腔内の状況に応じて歯科医や衛生士によるケアやアドバイスをもらい道具を揃え対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に記録しながら、利用者の方の排泄パターンや状態を把握している。食前・食後トイレに座る習慣をつけている。利用者に応じて声かけや定期的な誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。特に介助が必要な方の昼寝や就寝後はセンサーを使用しトイレ誘導している。失禁状況を分析し可能であれば布パンツに移行したり、パットの種類も尿量に応じ見直している。 (外部評価) 利用者個々に排泄チェック表を記入し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めておられる。職員はチェック表を確認しながら利用者をトイレに誘導されている。入居時、オムツを使用していた方も、日頃の様子の観察やパターンの把握に取り組み、職員から「布パンツでも可能ではないか」という意見が出され、ご本人、ご家族とも話し合い布パンツで過ごせるよう支援されている事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表のデータを基に個々に排便のパターンを把握している。予防として排便に良いとされる食べ物や飲み物を日常的に取り入れている。(麦、牛乳、ヨーグルトなど)集団レクや個別ケアの中に多く運動を取り入れ、必要な方には腹部マッサージを実践している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 気持ちよく入浴して頂く為に、体調の確認、同性介助や入浴の声かけ、時間帯を工夫し個々の利用者に応じた対応をしている。夜間の入浴はめったにないが日中職員がいる時間帯であれば「入りたい」と言う気持ちになった時を逃さないよう職員間で協力し対応している。雰囲気作りとして入浴剤や音楽を流す、デイの大浴場を利用することもある。 (外部評価) 毎日午後2時から4時の間が入浴の時間となっており、利用者は週に2回入浴できるよう支援されている。利用者からの希望で夕方入浴される方もある。入浴剤を使ったり、季節によってはゆず湯を楽しまれることもあるが、必ず「利用者を使用するかどうか」確認されている。又、敏感肌の方用の入浴剤も用意されている。入浴を嫌がる方もおられるが、利用者の様子をみながら、「銭湯に行きませんか」とお誘いし、法人の大浴場を利用する場合もある。利用者は広いお風呂に喜ばれるようだ。又、仲の良い利用者同士が誘い合って一緒に入浴されることもある。	職員のいろいろな都合等もあるだろうが、「入浴を楽しむ」という観点から、入浴支援が利用者主体に支援されているかということについて、入浴頻度等も含めて点検したり話し合ってみるような機会にされてはどうだろうか。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の方の睡眠状態や体調をしっかり観察し、それに依りて時間や場所を制限せず、休める時、休みたい時にゆっくり休んで頂くようにしている。個々の利用者に応じた室温や環境を整えている。夜間不眠傾向にある方には、日中の活動量(散歩や作業など役割を持った生活)を増やし、気持ちよく眠れるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者の薬について効用、副作用を知る為にミーティングでの勉強会を実施している。服薬については学んだ知識とご利用者の状況を分析し看護師や医者と相談し必要に応じ見直し服薬変更することもある。変更時は変更前と比較しやすいようチェック表に記録、日誌に効用、副作用を記載し共有できるよう心がけている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者との会話や、家族、過去を知る人から情報を集め日々の生活の中で趣味や特技をどのように支援すれば役割や楽しみとして活かせるか話し合いケアプランを作成し実践している。また、季節の行事や非日常を演出するような行事を計画し楽しんでもらえるよう工夫している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者の希望と習慣を把握し、行事での外出、個別ケアでの外出を明確にし予定を立て日々支援している。突発的な希望に対しても職員間で話し合い市内であれば即対応している。船や電車に乗ったり年に一度は遠出の外出支援を実践し、家族や、地域住民に協力もしてもらっている。遠い近い、多い少ないではなくご利用者に無理のない頻度で安心して楽しんでもらえるよう考えケアプランを作成し実践している。 (外部評価) 椿ユニットは、利用者の希望を聞きながら外出を支援し、なでしこユニットは、毎週金曜日は外出する日と決めて、楽しみに出かけておられる。市内のショッピングセンターへ買い物に出かけたり、ラーメン屋やファストフード店、回転寿司等好きなものを食べに出かけておられる。又、事業所の周辺を散歩されたり 隣の畑で飼っているヤギや近所の犬を見に出かけることもある。利用者は職員と一緒に、敷地内の畑の世話や玄関前のプランターで花や野菜の世話をされている。年に1回、利用者の希望を聞きながら「普段は行けない、できない事」を実現出来るように取り組まれている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は金庫にて個別に管理しているが、必要に応じて、ご利用者の希望時に所持して頂けるようにしている。一緒に買い物に行き好きな物を買ったり出来るよう個別ケアも行っている。預かり金以外に家族からお金をもらい個人管理している方はご自身で支払いする事もある。ご本人管理の金銭については紛失などの恐れがあることを家族に理解してもらっている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 帰宅願望のあるご利用者が安心して落ち着けるよう、ご家族と相談し、電話をかけた、ご家族から電話をかけて頂くなどしている。お友達などから手紙や小包が届く場合はお礼の連絡をしたりしている。手紙やはがきはお渡しするが返信したいとの希望は聞かれない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節のものを置いたり、ご利用者の方が作られた作品、散歩途中で摘んだ花を廊下や共用室に飾っている。懐かしい音楽やビデオを流した際にはご利用者同士当時のことを思い出され会話が弾み笑顔が多く見られた。照明などもご利用者の訴えを聞き変更した。フロアは毎食後、トイレ、廊下は毎朝掃除し清潔にしている。トイレの隅にバケツ、雑巾を置き汚れていたらすぐ掃除できるようにしている。快適に過ごせるよう温度湿度には注意している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週に1回、玄関にはボランティアの方が生花を生けてくれており、調査訪問時には白いユリの花が飾られていた。居間やテーブルの上には、カーネーション等の花や観葉植物の緑を配し、居間から中庭に出入りできる造りになっている。まぶしさを感じる方のために、一部、照明の明るさを弱くされたり、西日の調節にすだれを立てておられた。調査訪問時には、テレビをみる方や職員と一緒に体操をしたり、歌を歌っておられる方、マッサージチェアでくつろいでいる方もみられた。新聞や料理等の雑誌も用意されており、会話のきっかけにもなっている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>少し目隠しになっている廊下のイスやソファで気の合うご利用者同士お話をされたり、お経を唱えられる方の為に、畳の位置を変え、イスと座布団をおき、正座するのが難しい方でも座れるように工夫している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れた家具や布団、小物ものなど馴染みのものを置くことで、使いやすく落ち着ける空間作りを行っている。少しでも今まで生活していた環境に近い状態を作るようにご家族の協力の下環境整備を行っている。また、認知症状の進行やADLに変化があった場合は可能な限り安心、自立、できるような空間作りを心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族、利用者には、入居前にご自宅で使っている家具等を持ち込んでいただけるよう話しておられ、馴染みのタンスやベッド、イス等を持ち込んである居室がみられた。ご本人やご家族と相談しながら家具等の配置を決めておられる。「トイレに近い方が安心」と言われる方は、トイレに近い居室に移動することもある。又、状態に応じてベッドから畳へ等の変更等もされる。全室にエアコン・加湿器を設置されているが、加湿器の音やランプが気になり、落ち着かないような方には、ご本人が気にならないようにベッドの下に濡れタオルをかける等配慮されている。ご家族との写真や花を飾っている居室や、だいが前に猿を飼っていたことがある利用者には、ご家族が猿のぬいぐるみを持って来られている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>共有スペース、居室出入口には転倒防止のため、手摺りを設置。トイレ、風呂、居室には表札や表示をご利用者の目線にあわせ設置しわかりやすくしている。居室内で混乱する人も同様に表示などを活用し安心して過ごせるよう配慮している。</p>	